

令和7年度（2025年度）の熱中症搬送患者数等について



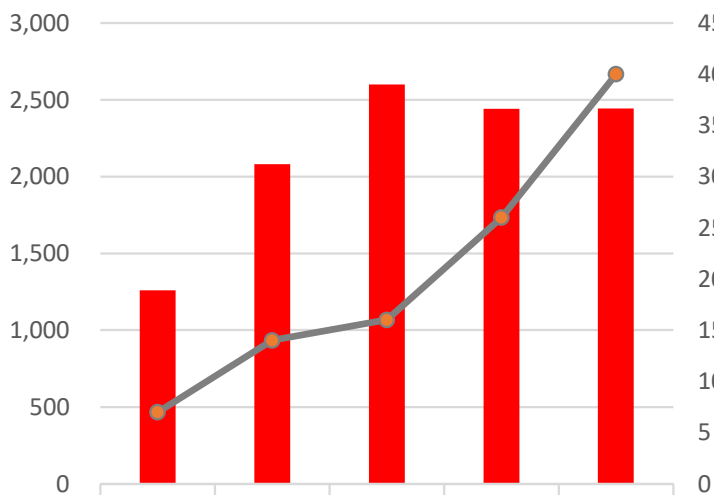
結果

- 本県の熱中症警戒アラート発報回数は前年度比53.8%増、搬送患者数は横ばい(+1名)。
- 搬送患者の年齢、発生場所分布は大きな変化なし（自宅・高齢者が最大多数）。

●熱中症警戒アラートの発報回数と熱中症搬送患者数(県・国比較)

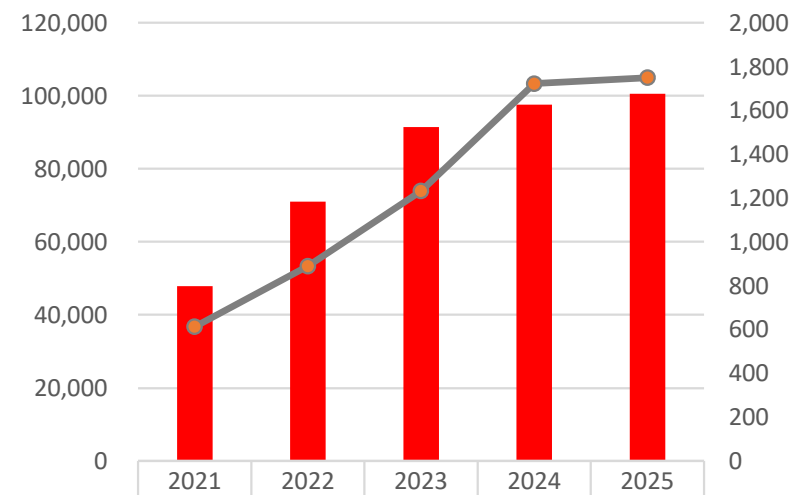
	熱中症警戒アラート 発表回数			熱中症搬送患者数		
		前年度比	前々年度比		前年度比	前々年度比
茨城県	40回	+53.8%	+150.0%	2,442人	±0.0%	▲6.1%
全国	1,749回	+1.6%	+42.0%	100,510人	+3.0%	+9.9%

茨城県



■ 茨城県 搬送患者数	1,259	2,080	2,600	2,441	2,442
● 茨城県 熱中症警戒アラート回数	7	14	16	26	40

全国



■ 全国 搬送患者数	47,877	71,029	91,467	97,578	100,510
● 全国 熱中症警戒アラート回数	613	889	1,232	1,722	1,749

●【参考】熱中症による死者数

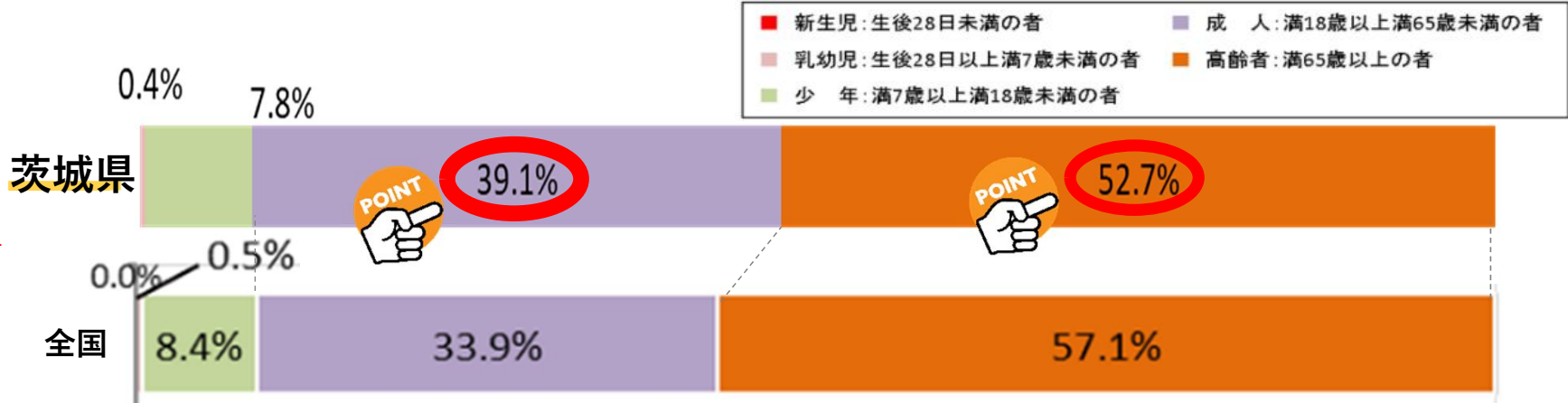
期間	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
茨城県	18	46	31	30
全国	755	1,477	1,651	2,160

茨城県の熱中症の特徴（詳細は参考資料参照）



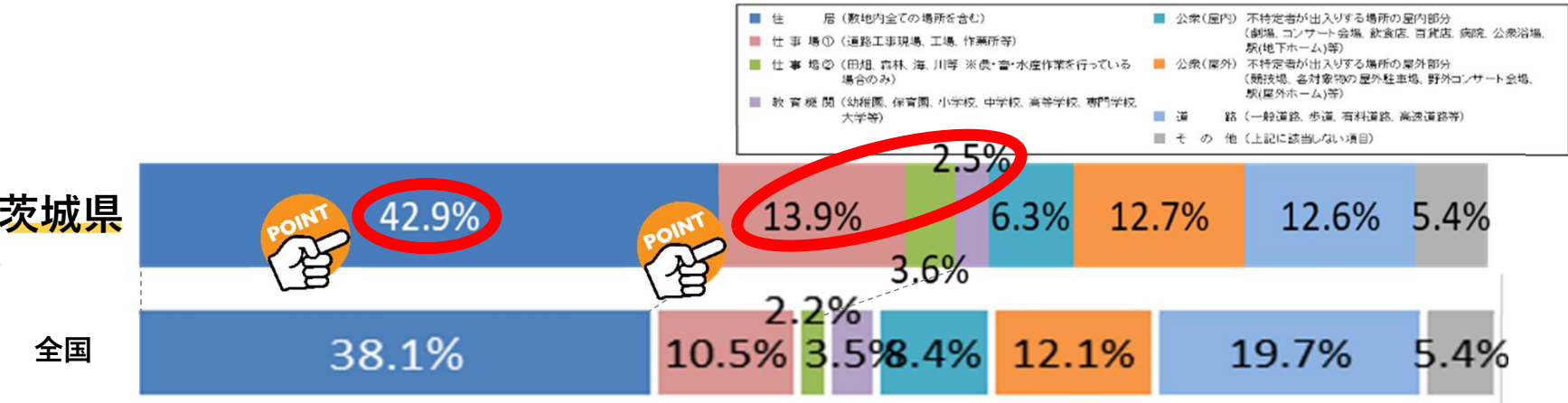
●年齢分布

年齢別では
高齢者・成人
のリスク高



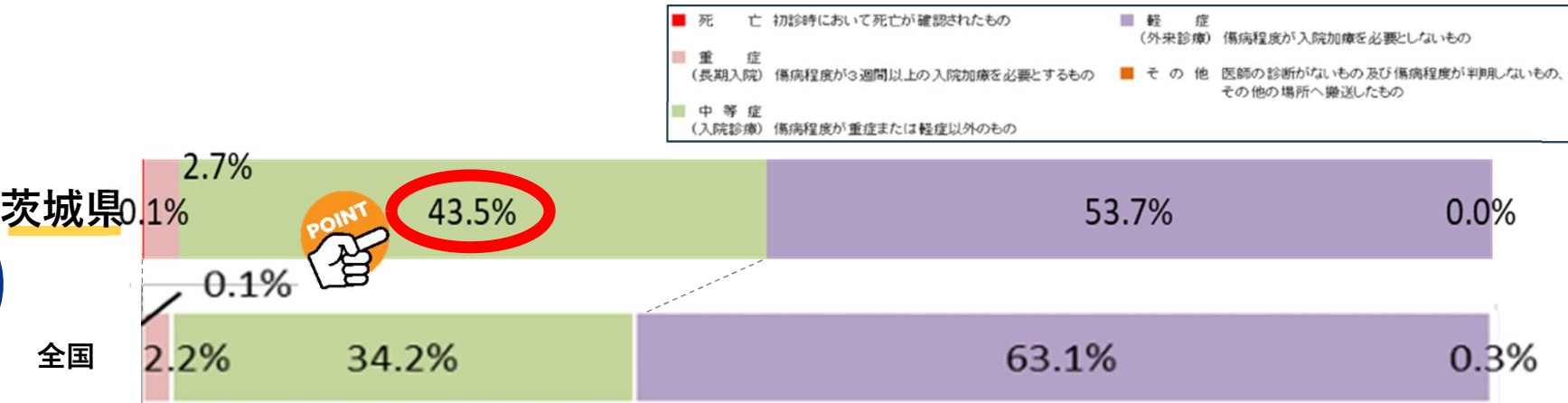
●発生場所分布

場所別では
住居・仕事場
のリスク高



●傷病程度分布

傷病程度では
入院を要する
割合高



令和8年度（2026年度）の熱中症対策の取り組みについて



本年度の評価

- 例年のピークは7月だが、**本年度は月平均最高気温が高い6月、暑さが続いた8月にも搬送者数増。**
- また、全国と比較し、本県は**年齢では高齢者と成人、場所では住居と職場(事務所含む)**のリスクが高いことが、ここ数年の傾向として確認できる。
- 一方、取り組みごとの効果は不確かだが、全体としては熱中症警戒アラートの発表回数が増加している中、全国の傾向と比較しても、**搬送患者数、死者数ともに一定の抑制効果は出ていると考えられる。**

次年度の方向

- 本年度は例年より早い時期から救急搬送患者数が増加し始めたが、人事異動もあり、周知依頼をさらに早めることは現実的ではないため、**引き続き4月早々に依頼を発出。**
- 特に以下のポイントを念頭において、団体との定期会合やイベント等での積極的な注意喚起を呼びかける。
 - **特に高齢者/労働者、住居/仕事場のリスクが高いこと**
 - **ピークの7月だけではなく、【暑さへなれ(6月頃)・ダレ(8月頃)】にも注意が必要なこと**
- また、新しい県独自の広報素材の作成機会にもなったため、**県の重点広報事項については毎年度定例化できるように交渉し、合わせてこれまでの周知方法等を各部署で人事異動があってもルーティン化していく。**

○次年度に向けた想定スケジュール

時期	県内の動き
03月中	・ 熱中症特別警戒アラート発報時の市町村連絡先等更新 ・ 環境省熱中症特別警戒アラートWG、検討会参加
04月中旬	・ 県庁各部局、市町村あて呼びかけへの協力依頼 ※以降各部局から順次注意喚起 ・ 熱中症特別警戒アラート連絡訓練実施
05月下旬	・ 県重点広報「ひばり」投函 ※具体の注意喚起が可能のため、本年度より1ヶ月早めて周知（要調整）
06月下旬	・ 県重点広報「新聞折込チラシ」投函
07月上旬	・ 大塚製薬コンビニコラボ 等
08月上旬	・ 再周知依頼



以下、参考



【近隣都県比較】暑さと搬送患者数



結果

- **関東圏で2023年度より救急搬送患者数が減っているのは茨城県のみ。**
※関東外では福島県が減少しているが、同県の熱中症警戒アラート発表回数が半分程度に減っている。
- さらに**熱中症警戒アラート増加率は栃木県に次いで2位、本年度の発表回数は同率1位。**
=本県の熱中症のリスクは関東近郊県と比較しても特になくなってきている。

●熱中症警戒アラートの発報回数と熱中症搬送患者数(近隣県比較)

	熱中症警戒アラート 発表回数			熱中症搬送患者数		
		前年度比	前々年度比		前年度比	前々年度比
茨城県	40回	+53.8%	+150.0%	2,442人	±0.0%	▲6.1%
		26回	16回		2,441人	2,600人
東京都	40回	+8.1%	+53.8%	9,315人	+15.0%	+27.2%
		37回	26回		8,100人	7,325人
千葉県	37回	▲5.1%	+8.8%	4,292人	▲2.4%	+13.9%
		39回	34回		4,396人	3,767人
埼玉県	33回	+43.5%	+32.0%	6,141人	+11.1%	+7.4%
		23回	25回		5,528人	5,719人
神奈川県	30回	▲18.9%	+15.3%	4,972人	+3.3%	+23.6%
		37回	26回		4,814人	4,024人
群馬県	28回	+27.3%	+64.7%	1,958人	+24.0%	+10.4%
		22回	17回		1,579人	1,773人
栃木県	21回	+61.5%	+200.0%	1,514人	+18.4%	+10.3%
		13回	7回		1,279人	1,373人
福島県	10回	▲16.7%	▲47.4%	1,698人	+31.0%	▲7.7%
		12回	19回		1,296人	1,840人
全国	1,749回	+1.6%	+42.0%	100,510人	+3.0%	+9.9%
		1,722回	1,232回		97,578人	91,467



茨城県の熱中症の特徴

【全国比較】 年齢・傷病程度・発生場所分布



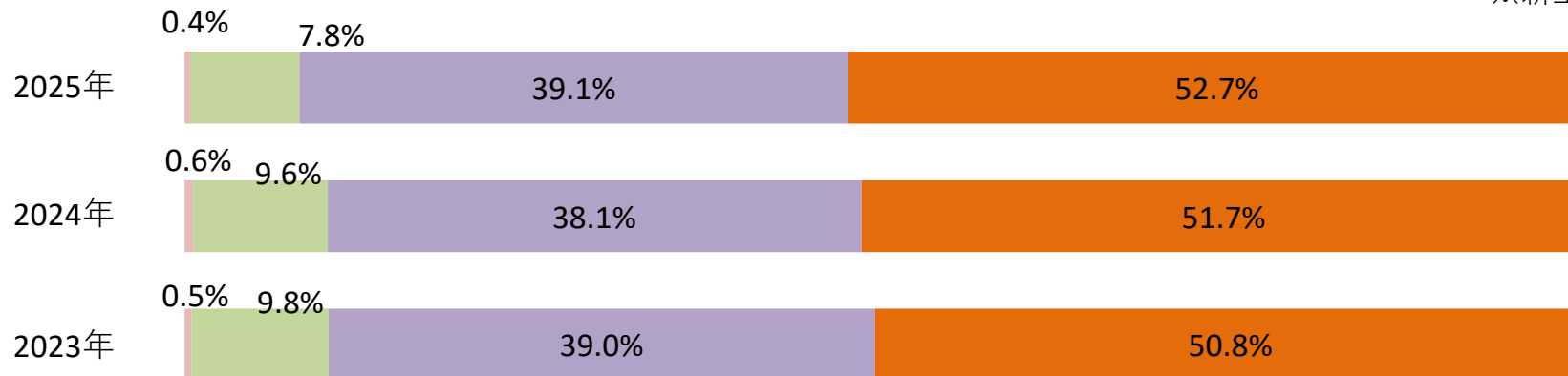
概要

- 全国と比較すると、高齢者の割合は若干少ない(-3~5%)が、それでも過半数を超える。
- 全国と比較すると、成人の割合が若干高い(+4~5%)



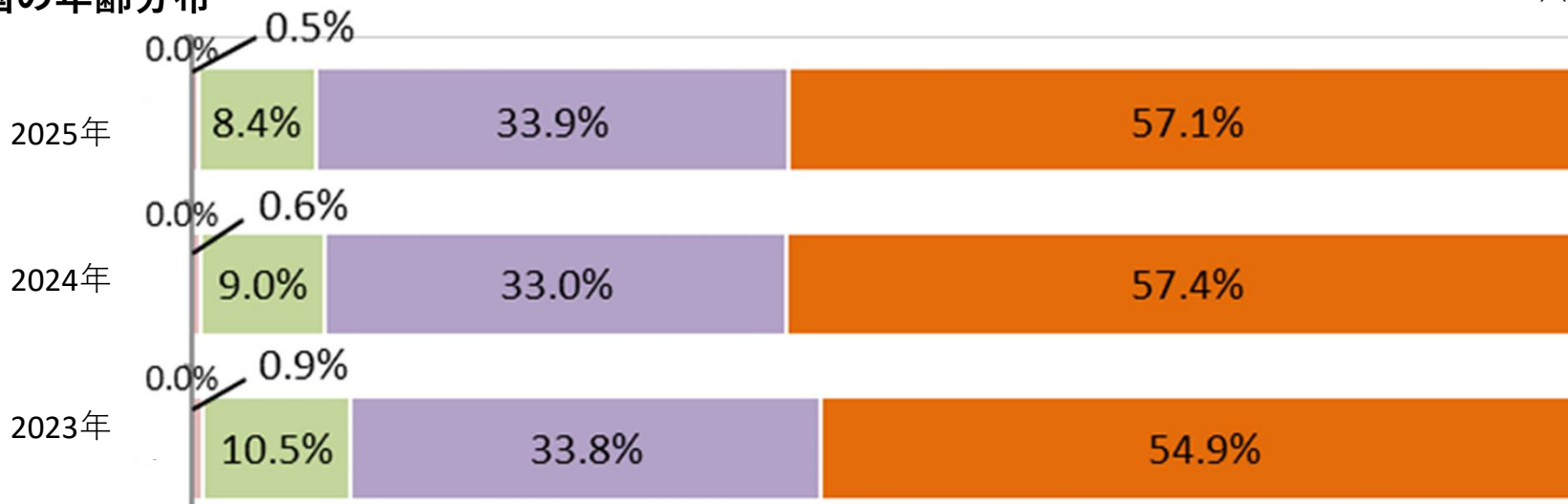
●茨城県の年齢分布

※新生児の搬送は0件



●全国の年齢分布

※消防庁資料より

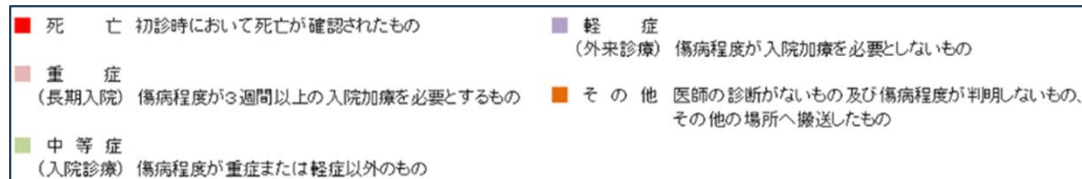


【傷病程度分布】全国比較

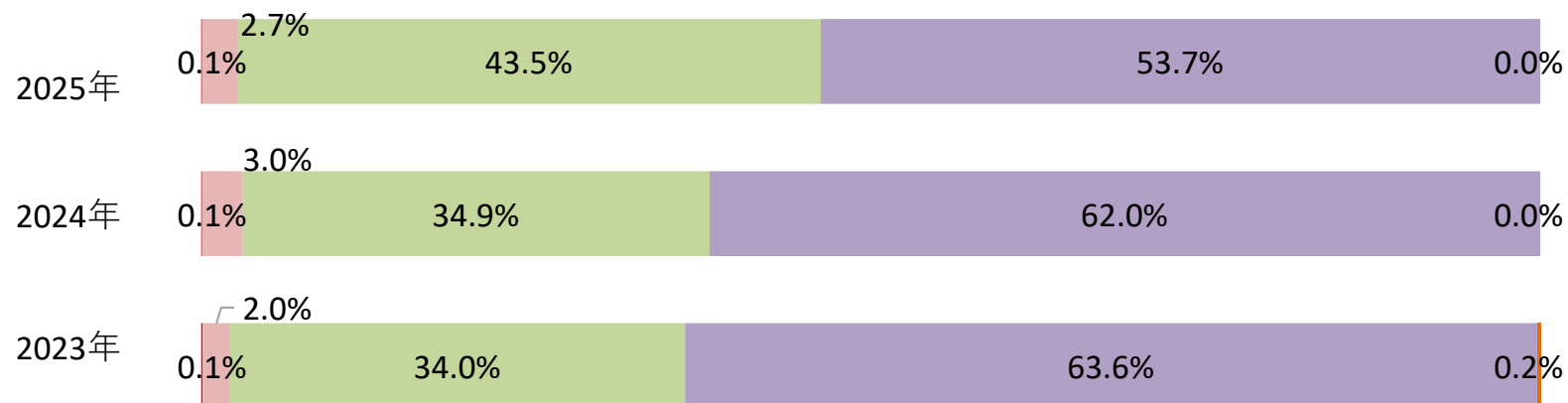


概要

- 全国と比較すると、**軽症者の割合が小さい**(-4~10%、本年度は特に顕著)。
- 全国と比較すると、**中等症者の割合が大きい**(+2~9%、本年度は特に顕著)

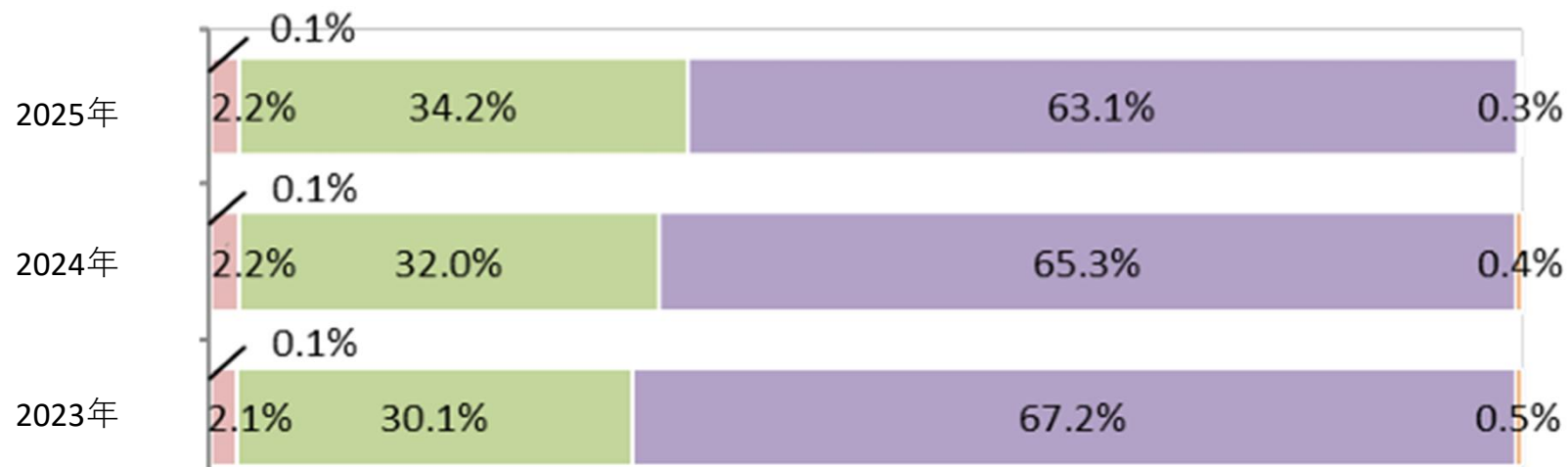


●茨城県の傷病程度分布



●全国の傷病程度分布

※消防庁資料より



【発生場所分布】全国比較

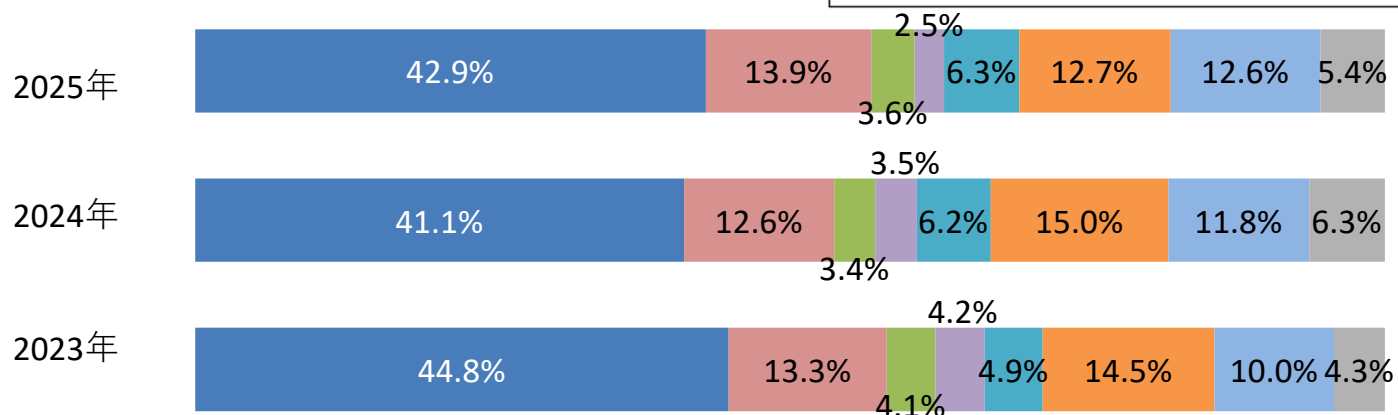


概要

- 全国と比較すると、**住居、仕事場(事務所等)からの搬送割合が大きい(+3~5%)**。
- 全国と比較すると、**道路からの搬送割合が小さい(-6~8%)**。

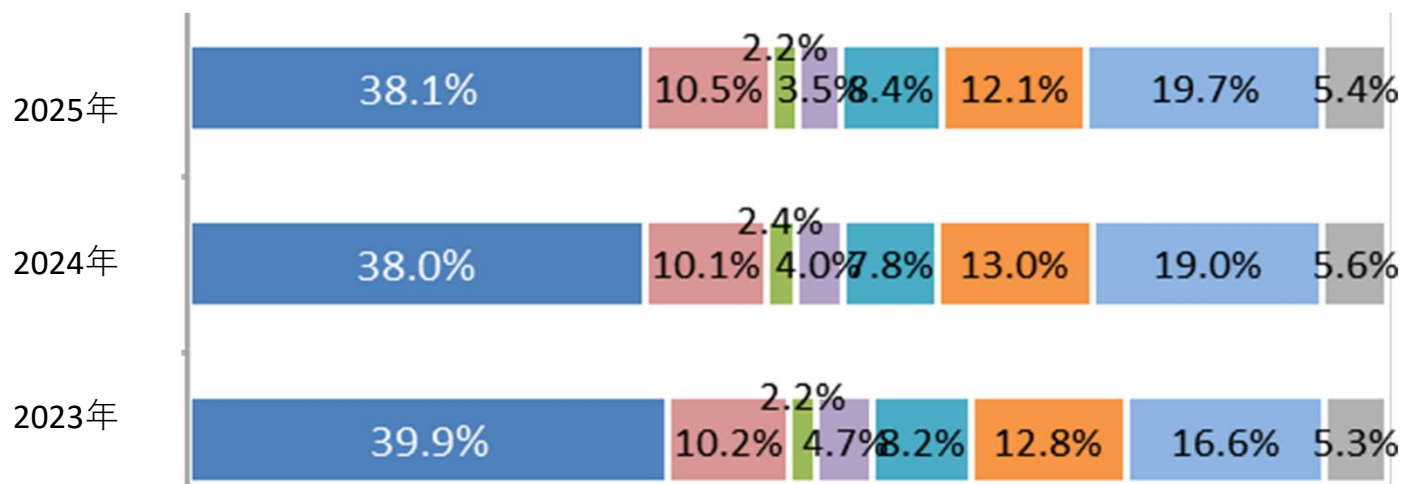


●茨城県の発生場所別分布



●全国の発生場所別分布

※消防庁資料より





【経年比較】年齢・傷病程度・発生場所分布

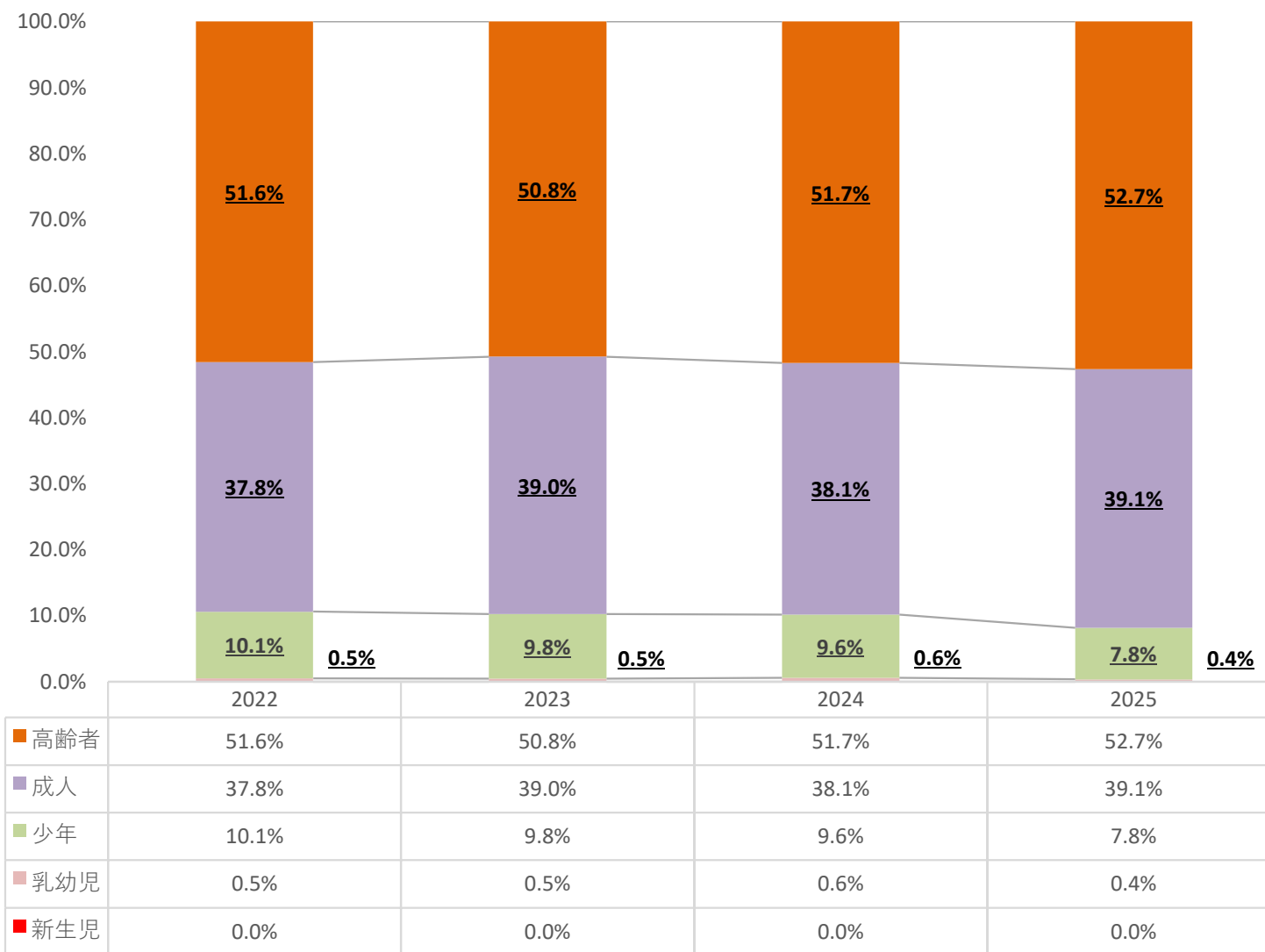
●【年齢分布】茨城県の熱中症救急搬送患者(2022年～2025年)



概要

- 経年による大きな変化は見られない。
- 若干高齢者割合がやや増加傾向、また少年(7～18歳未満)の割合が減少。

■ 新生児: 生後28日未満の者 ■ 成人: 満18歳以上満65歳未満の者
■ 乳幼児: 生後28日以上満7歳未満の者 ■ 高齢者: 満65歳以上の者
■ 少年: 満7歳以上満18歳未満の者

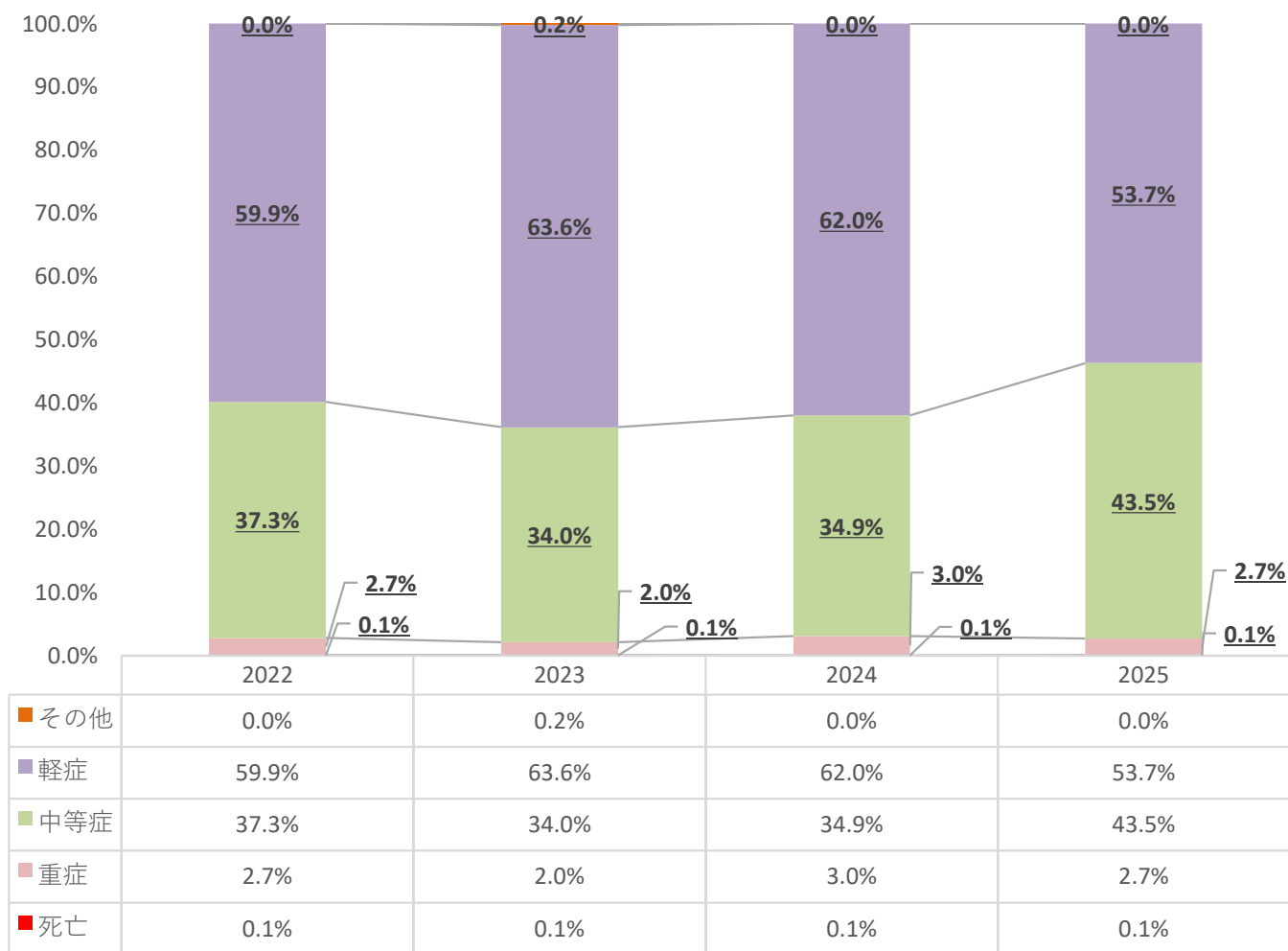
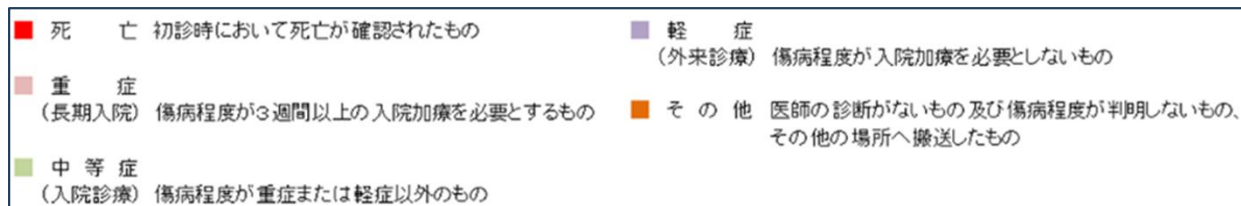


●【傷病程度分布】茨城県の熱中症救急搬送患者(2022年～2025年)



概要

- **軽症者割合は減少、中等症が増加**(割合では軽症者割合がそのまま中等症へ移った形)。
※ここでいう傷病程度は入院の有無で判断されているため、治療の度合いによる判定ではない。

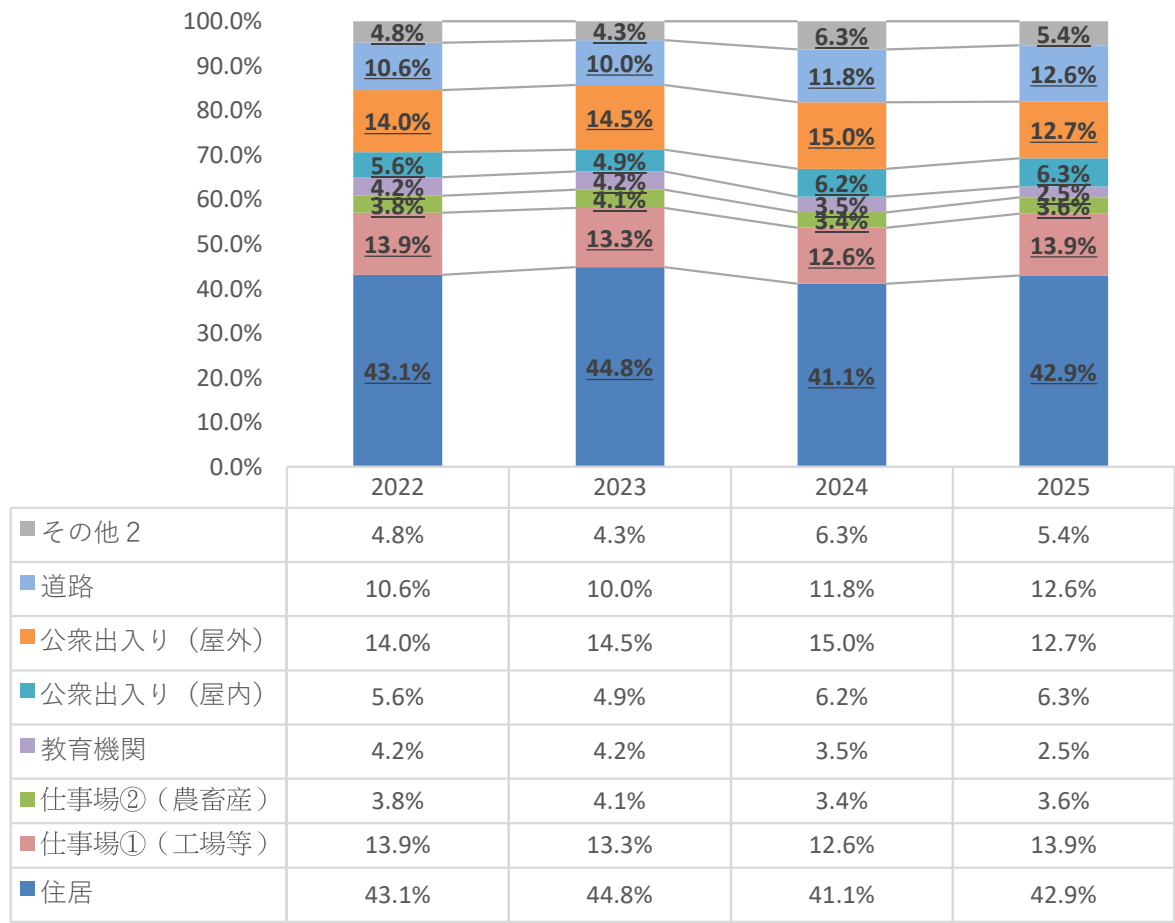
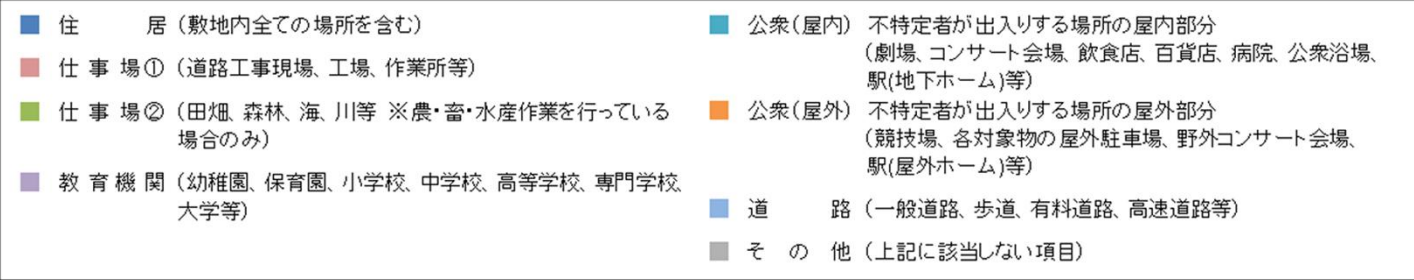


【発生場所分布】茨城県の熱中症救急搬送患者(2022年～2025年)



概要

- **住居割合・仕事場(農業以外)が若干増。**
- **年齢別で減少していた少年に関係する教育機関割合も減少。**他に**公衆(屋外)も減少。**





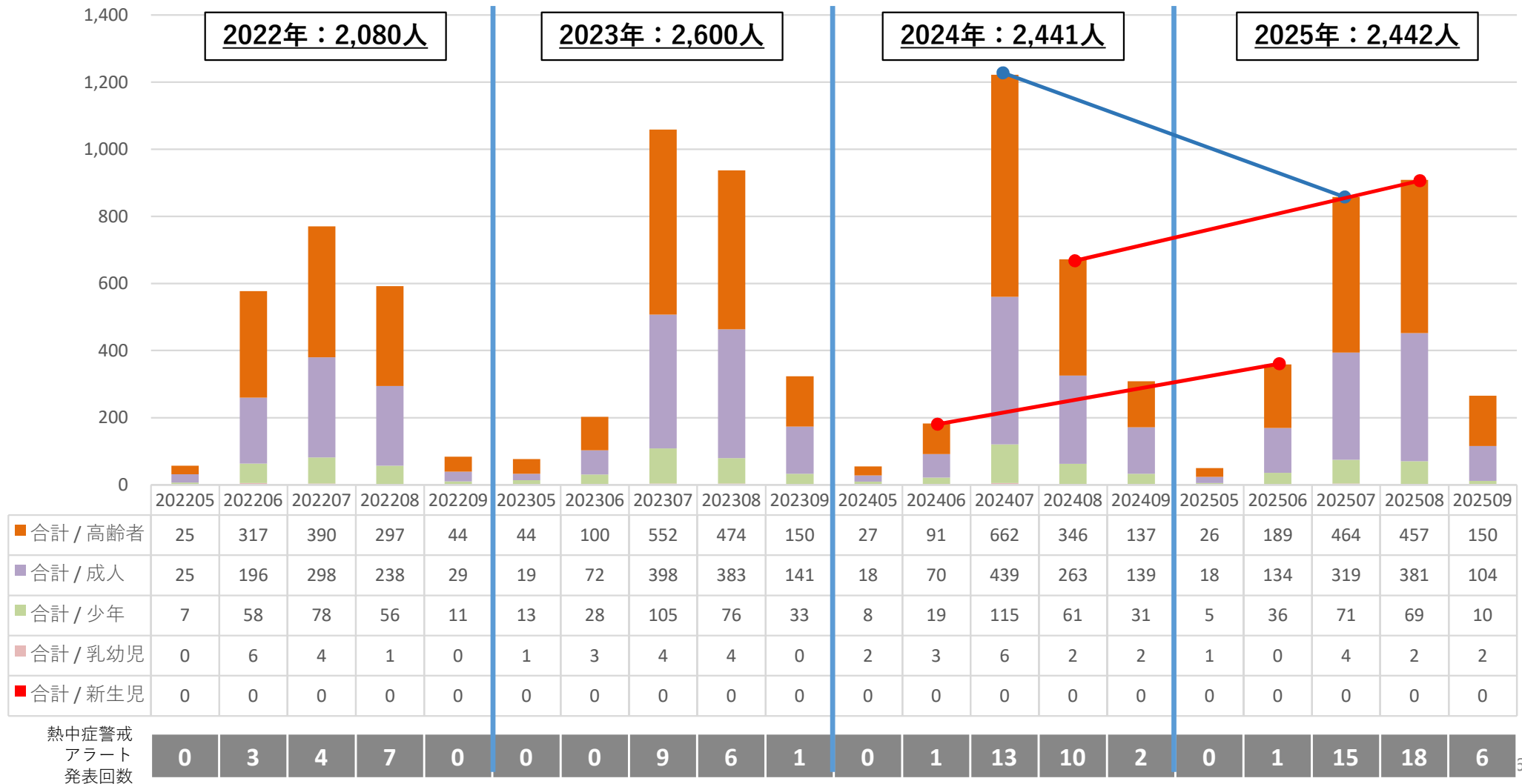
近年の取り組み状況について

令和7年度（2025年度）の熱中症対策の結果について



概要

- 本年度は暑さに不慣れな時期(梅雨前後)を主目標としたところ、全国比較では増加抑制が確認できる。
 【6月】全国：+136.8%(7,275人⇒17,229人)、茨城県：+96.2%(183人⇒359人)
 【7月】全国：-8.8%(43,195人⇒39,375人)、茨城県：-29.8%(1,222人⇒858人)
- 一方、8月は全国は微減に対し本県は大幅増(全国：-4.0%(32,806人⇒31,526人)、茨城県：+35.3%(672人⇒909人))。
 ※熱中症警戒アラートの発表回数が昨年度の1.8倍であったことが一因？あるいは暑さ疲れか？



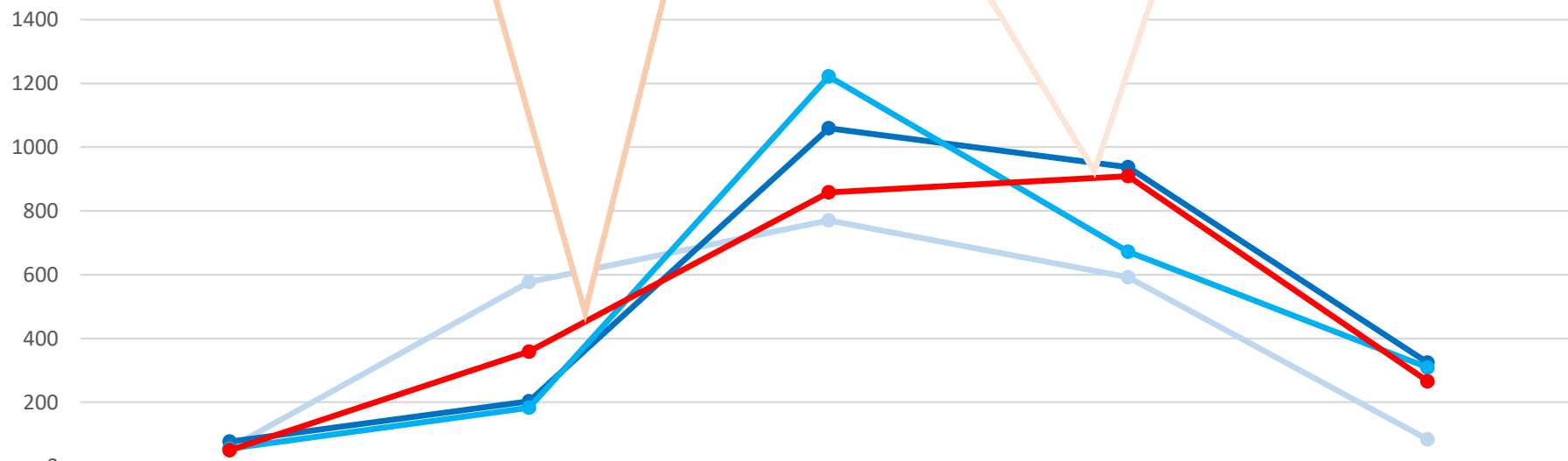
茨城県の月最高気温平均と搬送患者数の推移(2022~2025年)



●月別熱中症救急搬送患者数

過去2年と比較すると、6⇒7月の増加率が緩やか。逆に5⇒6月の増加率が突出して高い。

2025年は月別救急搬送患者数のピークが8月にずれ込んだ。



	5月	6月	7月	8月	9月	
2022	57	577	770	592	84	計2,080
2023	77	203	1059	937	324	計2,600
2024	55	183	1222	672	309	計2,441
2025	50	359	858	909	266	計2,442

●月別日最高気温平均

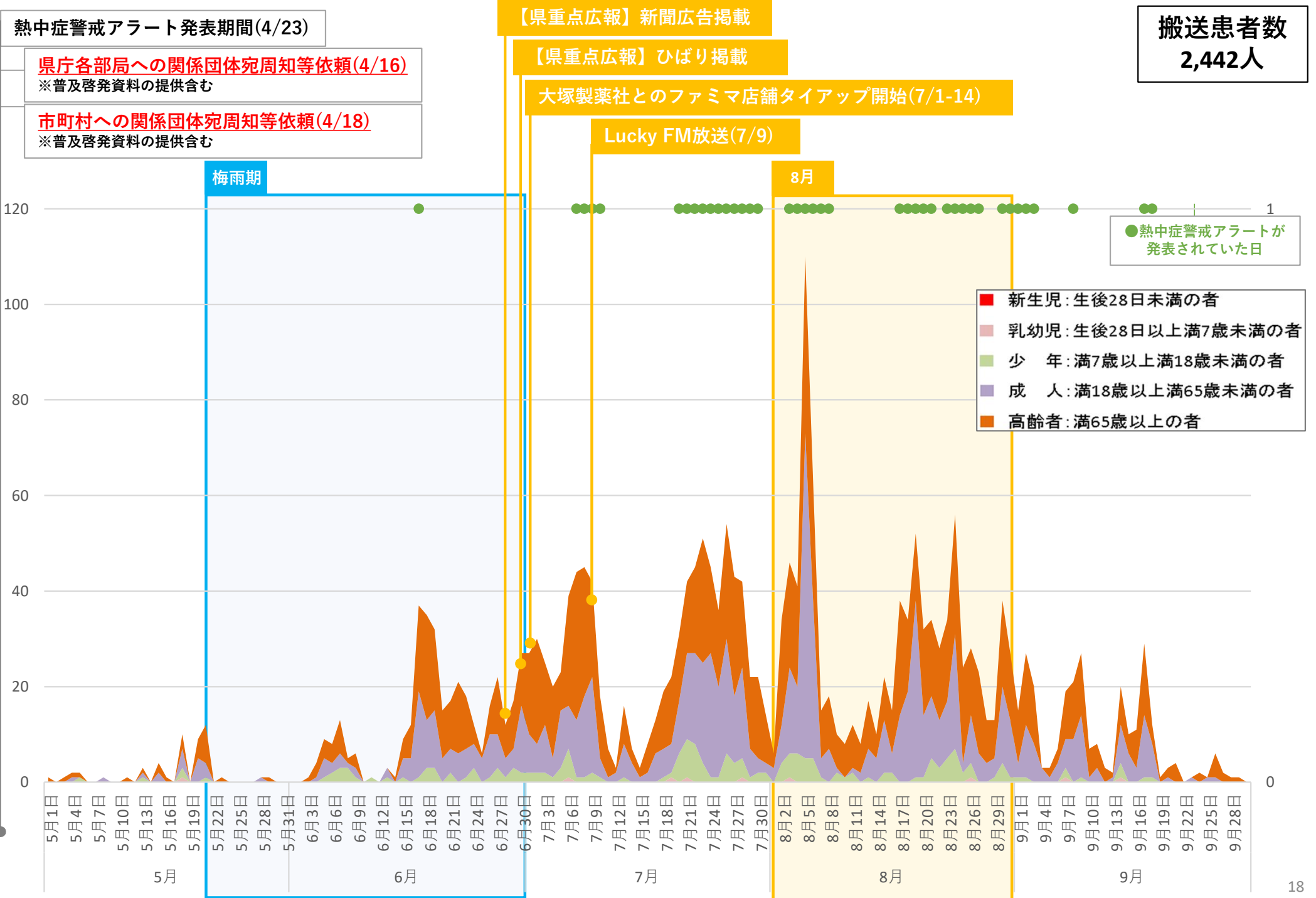
	5月	6月	7月	8月	9月
2022	22.4	26.6	30.7	31.1	27.7
2023	23.3	26.5	32.3	33.2	30.2
2024	24.2	26.8	32.3	32.4	29.7
2025	22.2	28.3	32.5	33.1	29.8

5月⇒6月：+6.1°C(平均：+3.3°C)
例年より差が大きい⇒搬送増？

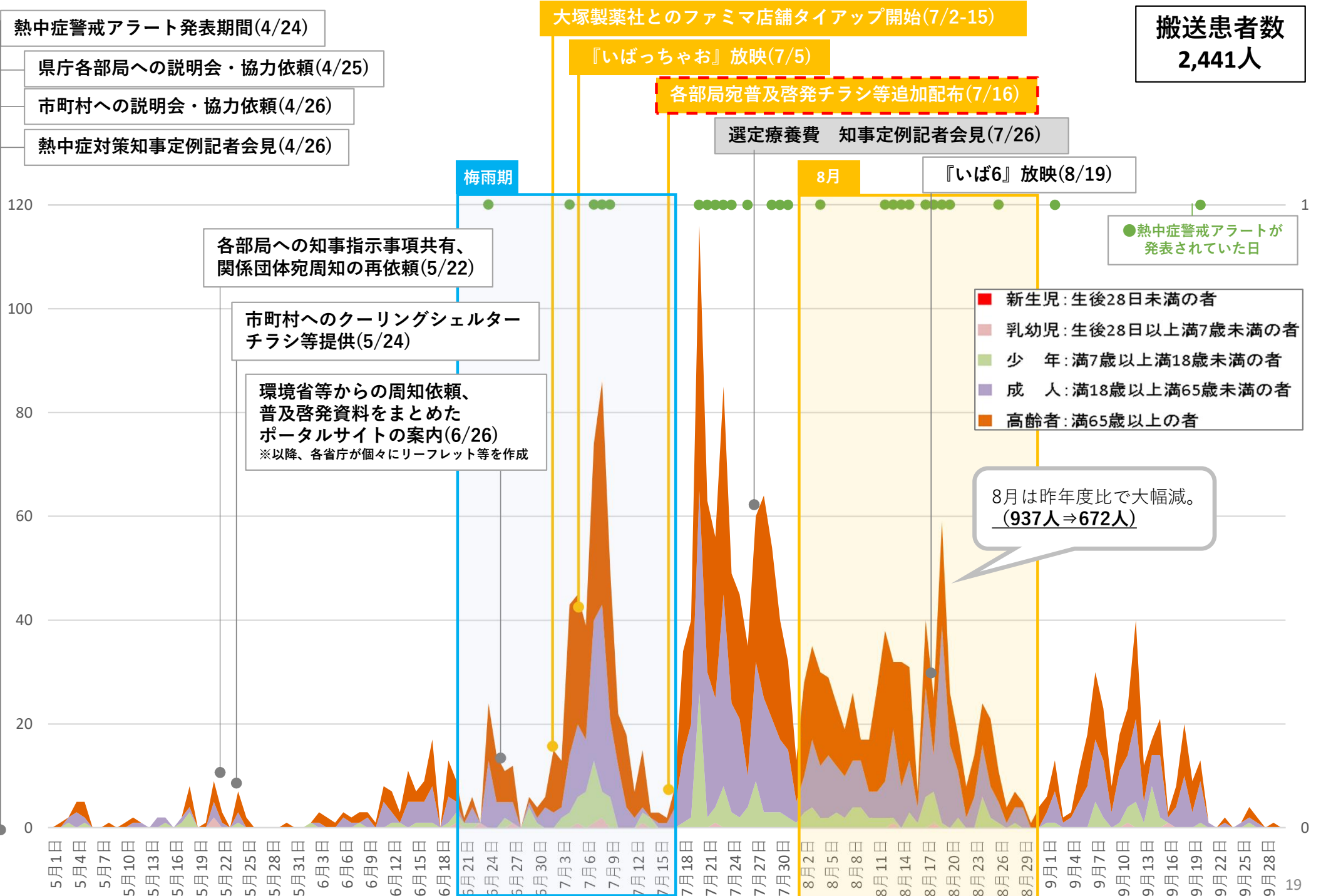
例年より1.5°C高い

6月⇒7月：+4.2°C(平均：+5.1°C)
例年より差が小さい⇒搬送減？

茨城県の熱中症対策に係る主な取り組みと搬送患者数の推移(2025年)



茨城県の熱中症対策に係る主な取り組みと搬送患者数の推移(2024年)



茨城県の熱中症対策に係る主な取り組みと搬送患者数の推移(2023年)



※熱中症予防に係る取り組みは不実施

搬送患者数
2,600人

初めのアラート発表期、梅雨明けのアラート発表時に急増
⇒暑さに慣れていない時期は特に注意喚起が必要

7月と比較して大幅減なし
⇒2024年は取り組みの効果ありといえるか？

